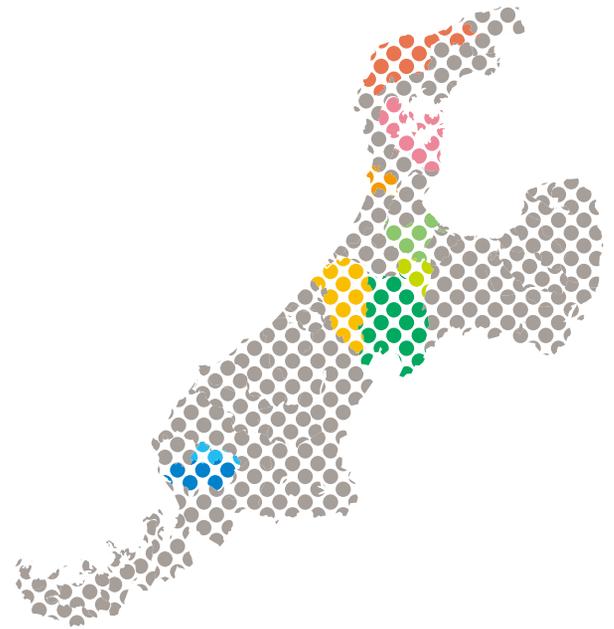


## CONTENTS ていねいを探す北陸旅 3 風の道をいく

Prologue	02	北陸のジェネレーターたち	04
ふくれんぼ、ふくい			08
福井の		福井の	
みがき 【磨】 キツゾ	10	はがね 【鋼】 岡田打刃物製作所	18
しつ 【漆】 土直漆器	12	かみ 【紙】 山次製紙所	20
ほり 【誇】 漆琳堂	14	あらた 【新】 宗山窯	22
はもの 【刃】 タケフナイフビレッジ	16		
おらっちゃんのかげ、いしかわ			24
石川の		石川の	
き 【木】 四十沢木材工芸	26	ゆめ 【夢】 イタヤファーム	34
かし 【菓】 の菓子研究所	28	ころも 【衣】 暮らしの衣あじさい	36
とき 【時】 KALPA	30	くう 【空】 デザインスタジオKuKi	38
しろ 【白】 能登ミルク	32		
あいかげ、とやま			40
富山の		富山の	
まこと 【真】 躑躅山光徳寺	42	ちゅう 【鋳】 老子製作所	50
やど 【宿】 Bed and Craft	44	じゅう 【柔】 大寺幸八郎商店	52
ともし 【灯】 トモル工房	46	いつしみ 【慈】 農家レストラン大門	54
さけ 【酒】 三郎丸蒸留所	48		
北陸のくらし【暮】	56		



北陸ジェネレーション



ていねいを探す北陸旅 3

## 風の道をいく

# 北陸ジェネレーション

荒々しくも、恵み豊かな日本海を臨み  
日本三大霊山の白山、立山に抱かれた  
美しい田園が広がる場所。

自然と向き合い、智慧と工夫を重ねて  
真摯に生きる人たちがいます。

変化の風が吹き、新しい風を求める  
今だからこそ、北陸を旅してほしい。

あらゆる世代の人

これからの世代の人も

その土地ならではの新風を感じられる  
素敵な出会いが待っているはず。

わくわくする発見を。

北陸ジェネレーションをおくります。

今号のテーマは「風」。

福井は、ものづくりの未来を膨らます

「ふくれんぼ(風船)」を

石川は、しなやかに我が道をいく

「おらっちゃんのかぜ」を

富山は、穏やかだけれど

変化に富む「あいのかぜ」を。

北陸に新しい風を吹き込み巻き起す、

ヒト、モノ、コトをふれて、感じて、味わって

あなたの「好き」を見つけてください。

# 福井、石川、富山で会いましょう。

「伝統と基礎を重視するからこそ応用や  
工夫ができ、新しいモノができる」

岡田打刃物製作所

伝統工芸士 岡田政信さん(左)

子方 矢村隆幸さん(右)

「ジェネレーター」たち。

「北陸世代」を担う、

これからの北陸を担う人、育てる人。  
その智慧、技術を受け継ぐ人、伝える人。  
地域を発動する源となる人を  
この本では「ジェネレーター」と呼び  
ご紹介しています。

「能登ミルクが持つ素材そのもののよさを生かすこ  
と。それを何よりも大切にしています」

能登ミルク代表 堀川昇吾さん(左)

ジェラートマエストロ・マイスター 宙さん(右)

「自分が好きな自然も、井波での修行で  
学んだ技術も、すべてが作品に生かされ  
ていると感じます」

トモル工房 彫刻師 田中孝明さん

「観光は“人”。出会いの記憶が残って、  
人のつながりをつくると思うのです」

コラリアルチザンジャパン代表  
建築家 山川智嗣さん

# 福井、石川、富山のジェネレーターたち

## 伝え、育む。継承し、担う。

Generator



福井県  
越前市

P16

タケフナイフビレッジ  
戸谷祐次さん



福井県  
越前市

P18

岡田打刃物製作所  
岡田政信さん



石川県  
輪島市

P26

四十沢木材工芸  
四十沢宏治さん、葉子さん



富山県  
高岡市

P50

老子製作所  
老子祥平さん



富山県  
高岡市

P52

大寺幸八郎商店  
大寺康太さん、桂さん



## 故郷を愛し、繋げる。

Generator



石川県  
輪島市

P30

KALPA 八重門漆器店  
八重門亮輔さん



石川県  
七尾市

P32

能登ミルク  
堀川昇吾さん、宙さん



石川県  
羽咋市

P34

イタヤファーム  
藤島健一さん



富山県  
南砺市

P42

濁飛山光徳寺  
高坂道人さん



富山県  
砺波市

P54

農家レストラン大門  
境 嘉代子さん

## 受け継ぎ、挑む。

Generator



福井県  
鯖江市

P10

キッソオ  
吉川精一さん



福井県  
鯖江市

P12

土直漆器  
土直直東さん



福井県  
鯖江市

P14

漆琳堂  
内田徹さん



福井県  
越前市

P22

宗山窯  
宗倉克幸さん



福井県  
越前市

P20

山次製紙所  
山下寛也さん



富山県  
砺波市

P48

三郎丸蒸留所  
稲垣貴彦さん

## 移り住み、戻り、道を拓く。

Generator



石川県  
輪島市

P28

の菓子研究所  
萩のゆきさん



石川県  
金沢市

P36

暮らしの衣あじさい  
西 友里さん



石川県  
金沢市

P38

デザインスタジオKuKi  
北川里沙さん



富山県  
南砺市

P44

コラリアルチザンジャパン  
Bed and Craft 山川智嗣さん



富山県  
南砺市

P46

トモル工房  
田中孝明さん、早苗さん

# ふくれんぼ、ふくい。

霊峰・白山をのぞみ、  
風光明媚な越前、若狭海岸に  
田園風景が織り成す美しき風景に  
心奪われる、福井県。  
なかでも丹南地方は、  
越前漆器・越前和紙・越前打刃物・  
越前箆筒・越前焼といった伝統工芸と  
眼鏡・繊維などの地場産業が集積する  
ものづくりエリアとして知られています。

匠の技を継承しながらも  
現代のニーズに応えるものづくりは  
担い手である若い世代を巻き込み  
新しい風を産地に吹き込んでいます。

ものづくりの新風で、希望を膨らませて。  
大空に飛び立つ  
ふくれんぼ(福井弁で風船)たちを  
ご紹介します。



福井の

# みがき【磨】



## 眼鏡の技術を未来につなぐアクセサリ― 福井県鯖江市

心ときめく色彩を放つKISSOのアクセサリ―。セルロースアセテートという植物由来の素材でできており、肌にやさしく着け心地がよい。生まれ故郷は眼鏡のまち・鯖江。「セルロースアセテートは眼鏡フレームの素材。これを削り、プレスし、磨いてアクセサリ―に加工しますが、すべて眼鏡づくりの技術が生かされています。一つひとつ表情が変わるのが魅力で、まさに

オンリーワンのアクセサリ―です」と代表の吉川精一さん。眼鏡の材料全般を扱う商社キッソオが、アクセサリ―という新規事業を立ち上げたのは、苦境が続く鯖江の眼鏡業界を盛り上げたいとの思いからだった。



「アクセサリ―の企画デザイン、切削加工・研磨工程は社内で行いますが、その他の加工は近隣のメガネ工場に依頼しています。眼鏡づくりに携わる職人の技を守り、切磋琢磨できれば」と話す。社内の作業場では、職人が高速回転する研磨機を使った指輪をつくっていた。継ぎ目のないリングに磨きを施すと表面に光沢が生まれ、セルロースアセテート独特のしっとりした絹のような光沢を放ち始めた。



KISSOをソウルフード的な存在、地域で愛される存在に  
株式会社キッソオ 代表 吉川精一さん

福井県鯖江市丸山町4-305-2 <http://kisso.co.jp>

商社キッソオの2代目。「KISSOのアクセサリ―を地域のソウルフード的な存在、地元の人に愛されるブランドにするのが夢」と熱い想いを語る一方で、苦労話はユーモアを交えながら話す、その笑顔が印象的だ。アクセサリ―の他にも、眼鏡の素材と技術を使った雑貨の開発にも取り組んでいる。



### KISSO STORE

福井県鯖江市丸山町4-305-2 ☎0778-54-0355

Note

営業時間 / 10:00~17:00 定休日 / 日曜、年末年始、夏季休暇

2020年オープン。世界で一つのKISSOのアクセサリ―を直接購入できる直営店。オンラインショップにもないアクセサリ―も販売しており、じっくりと選ぶことができる。



北陸道 鯖江ICより約15分



# 福井の

# しっ【漆】



日々使い、デニムのように経年変化を楽しむ 福井県鯖江市

「木から切り出して形作り、木の樹液である漆を塗って仕上げる。自然の素材のみを使う漆器づくりにこだわりがあります」と話すのは土直漆器の二代目、土田直東さん。越前漆器の特長は、堅牢さと塗りの美しさといわれるが、そのためには高度な技が要求される。「上塗りの工程では、空気中の埃も付けないよう、熟練の技術力と集中力が必要です」。職人としての顔を持つ土田さんの言葉の通り、工房には緊張感が漂い、職人が刷



毛を持つと思わず息を止める。丹念に、しかし素早く漆が塗られていく様子に目が離せない。



土直漆器では、越前漆器の伝統を受け継ぎつつ、現代の生活に寄り添う漆器づくりにも力を入れる。工房と隣接する直営店には黒や朱色だけでなく、ネイビーやベージュの漆を塗ったモダンな器も並ぶ。「抗菌作用も認められるなど、いろいろな利点を持つ漆器ですが、私は経年変化がいちばんの魅力だと思う。デニムと同じで、使ううちに色が変わって“味”になる」。高級品のイメージだった漆器が、その言葉でぐっと身近になった。陳列台に並ぶ漆器から一緒に年を重ねる相棒にと、丸い、やさしい形のお椀を手にとった。

**G** 1500年の歴史を持つ越前漆器の町で、工房とショップを展開  
土直漆器 土田直東さん  
Generator 福井県鯖江市西袋町214 ☎0778-65-0509  
営業時間 / 10:00~17:00 定休日 / 不定休  
<http://www.tsuchinao.com>

2022年7月で60周年の土直漆器。一般的に漆器は分業制だが、創業者の土田直会長時代から木地づくり以外の工程を社内で一貫して行い、品質を管理する。「直営店は地域の魅力を伝える発信の場にもしたい」と直東さん。店内には食洗機でも使える丈夫な器、「漆を持ち運ぶ」をテーマにしたタンブラーや名刺ケースも展開する。



北陸道 鯖江ICより約15分



福井の

# ほこり【誇】



風土が育む越前漆器の誇りを、日々の食卓に 福井県鯖江市

ある人気料理家が、どんな料理にも合うと手放して褒める漆器がある。  
しつりんどう りん あんど こー  
漆琳堂の「RIN&CO.」シリーズの漆器だ。絶妙なカラーと洗練したかた



ちの美しさに思わず手にとると、刷毛で塗った筋跡が残り味わい深い。「こうした仕上げは『刷毛目技法』といい、塗り直しがきかないため高度な技が求められます」と話すのは、1793年から越

前漆器を製造販売する漆琳堂代表の内田 徹さん。「日用品として使う器を目指し、漆器の定番にはない色調にしたいと考え調合を重ねました。最大の特徴は福井県、福井大学と産学官の連携で研究開発された『越前硬漆』かたうるしを使っていること。食洗機の使用に耐える堅牢な漆です」。パスタやデザートなど和洋問わず使えるように、お椀などの底にある高台をなくしたデザインは幅広い世代に受け入れられ、テーブルウェアとしての地位をゆるぎないものにした。工房のある2階では「むろ」と呼ばれる昔ながらの乾燥室に塗らたての漆器が整然と並べられていた。「漆は空気中の水分を取り込むことで乾燥し、ゆっくりと硬化していきます。雪や雨の多い湿潤なこの地方独特の風土が漆器産業を育てたのです」と語るその横顔は、越前漆器のものづくりへの誇りと気概に満ちていた。

**G** 鯖江・越前の伝統工芸で人と地域を輝かせたい  
株式会社漆琳堂 内田 徹さん  
Generator 福井県鯖江市西袋町701 ☎0778-65-0630  
営業時間 / 10:00~16:00 定休日 / 不定休  
<http://shitsurindo.com>

大学卒業後に祖父・父のもとで漆器製造の下地・塗りを習う。産地最年少で越前漆器伝統工芸士に認定。2019年に漆琳堂代表となり越前漆器の技を生かしたものづくりに取り組む。「父からは『真似するのではなく真似されるようになれ』と。みんなが潤うものづくりが理想です。そのためには、まず自分たちが輝かないとね」と笑顔を見せた。



北陸道 鯖江ICより約15分



福井の

# はもの【刃】



越前市

ひとつ屋根の下で切磋琢磨する職人と出会う 福井県越前市

約700年の歴史を誇る、越前打刃物。刃の部分を二枚重ねて打つ「二枚広げ」という独特の技法が特徴で、その切れ味の良さは海外でも評判が高い。衰えぬ人気の理由は、職人による「暮らしの道具」としての刃物づくりにあるという。いち早く高付加価値化を進め、多くの伝統産業が後継者不足に悩むなか、若い職人も多くいると聞き、越前市の「タケフナイフビレッジ」を訪れた。ビレッジの創設は1993年で、当時20代から40代の職人たちが、安価な刃物の台頭や後継者不足といった苦境を打開すべく立ち上げた。13社の刃物会社が集まるという共同工房では、鍛冶や研ぎの職人たちがひとつ屋根の下で作業を行う。「共同



工房だから、鍛冶職人と研ぎ師がすぐ隣にいる。会社が違って意見交換しやすく、お互いの成長になる」と話すのは職人の一人、創設メンバーの子ども世代にあたり、現在は運営にも携わる戸谷祐次さん。会社員を経て、父の跡を継ぎ研ぎ師になった。「刃物は暮らしの道具です。使う人に喜ばれ、幸せにする刃物をつくりたい」と戸谷さん。高速で回転する砥石に刃物を押し当てる「研ぎ」を何度も繰り返す真剣な横顔から、使い手を思う誠実さが伝わってきた。



Note

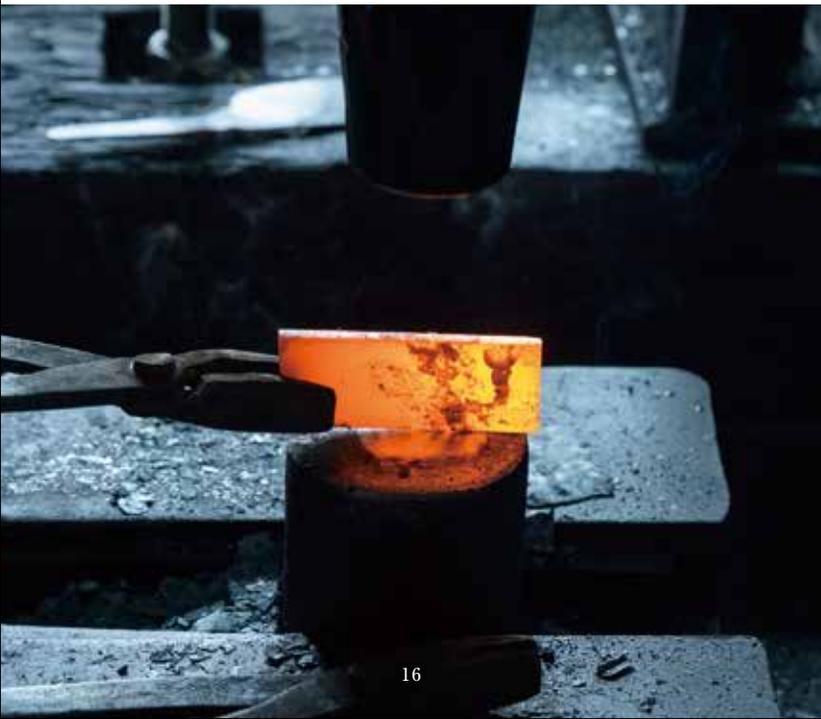
越前打刃物づくりを見学、体験できる

タケフナイフビレッジ

福井県越前市余川町22-91 ☎0778-27-7120  
営業時間 / 9:00~17:00(年中無休・年末年始を除く)  
入場料・見学科 / 無料 体験教室 / 600円~35,000円  
<https://www.takefu-knifevillage.jp>

越前打刃物の職人たちと福井県出身で世界的なデザイナー・川崎和男氏が出会い、創設された。併設する資料館では、その歩みや歴史を詳しく紹介している。共同工房で活動する職人の半数が伝統工芸士。ショップでは職人の包丁などを購入できる。

北陸道 武生IC より約10分



福井の

# はがね【鋼】



越前市

越前打刃物の祖、越前三日月鎌の伝統技法 福井県越前市

タケフナイフビレッジの近くに、岡田政信さんの工房があった。薄暗く緊張感が漂う工房内には使い込まれ、年季の入った炉や道具が並ぶ。岡田さんは、ここで越前打刃物の祖とされる越前三日月鎌をつくり続ける。鎌の鍛造には越前独自の<sup>まさお</sup>杵置き法、<sup>はがね</sup>廻し鋼といった伝統技法が集約されているが、今では鎌をつくる職人も廻し鋼ができるのも



も岡田さんのみ。地鉄に鋼を付ける作業を見せてもらった。岡田さんは高温で焼いた地鉄の、敢えて狭い面(杵)に鋼を乗せ、小槌で叩いて密着させた。これが杵置き法と呼ばれる技法だ。「次は廻し鋼をや

るよ」言う、地鉄に密着させた鋼の角を潰しながら地鉄を右に回す。一瞬にして鋼が地鉄の広い面に伸ばされた。こうした越前独自の技法は、難易度はかなり高いが、刃は切れ味が良くなる。先人たちの「どこよりも切れ味の良い刃物をつくりたい」という強い想いが生んだ技法だという。岡田さんはプロが使う鎌や刈込鋏の他、伝統工芸の職人が紙を切る際に使う小刀など多様なモノづくりにも意欲的だ。

「伝統と基礎を重視するからこそ応用や工夫ができ、新しいモノができる」と語る表情は、鎌と同じく実直かつ凜としていた。



**Generator** 越前独自の伝統技法、廻し鋼を継承  
岡田打刃物製作所 伝統工芸士 岡田政信さん  
福井県越前市池ノ上町49-12 ☎0778-24-1612  
営業時間 / 9:00~17:30 <http://okadauchihamono.net>

タケフナイフビレッジ創設メンバーの一人で、伝統技法の継承に力を入れる。「叩いて伸ばす、広げる、擦る、曲げる、の4つの理屈を理解すれば越前打刃物はできる。だけど数値や理屈ではなく、手の動きや力の加減といった職人としての感覚を体得しなればできない。そこが難しい」と語る。子方と呼ばれる弟子の矢村隆幸さんは「師事して約8年。まだまだ修業中です」。



北陸道 武生ICより約15分



福井の

# かみ【紙】



## 越前和紙の可能性を広げる手漉き和紙 福井県越前市

日本で唯一の紙の神様を祀る岡太神社・大瀧神社があり、昔懐かしくも厳かな雰囲気がある越前市大滝町。ここで生まれる越前和紙は約1500年の歴史がある。手漉き和紙をつくる山次製紙所は明治元年創業で、越前和紙独自の技法で模様をつけた美術小間紙をつくってきた。現在は主に日本酒ラベルに使う和紙を漉く。「今の生活で和紙を見る機



会はほとんどない」と、職人の山下寛也さんは危機感を抱く。「この先、和紙が洋紙に取って代わることはない。それなら和紙を素材にしたモノづくりで、越前和紙の可能性を広げよう」と考え、2017年にUKIGAMIブランドを立ち上げた。UKIGAMIは、顔料で染めた鮮やかな色の和紙を使った茶缶などを展開する。和紙独特の風合いと、エッジのきいた凹凸で表現した

独創的な模様が美しい。これは山次製紙所が独自に開発した「浮き紙」というもの。「伝統を守るだけでは、次の時代に残せない。常に形を変えながら、新しいことに挑んでいかなければ」と山下さん。強い想いと丁寧な手仕事で、これからも手漉き和紙の可能性を広げていく。

**Generator** 越前和紙をつかった暮らしに取り組み  
山次製紙所 伝統工芸士 山下寛也さん  
福井県越前市大滝町29-5 ☎0778-42-0553  
営業時間 / 8:00~17:00 定休日 / 土曜、日曜  
<https://yamatsugi-seishi.com>

山次製紙所は山下さんの叔父が社長を務め、ともに働く山下さんの父、祖母も伝統工芸士。「気軽に越前和紙に触れてもらえるモノづくり、越前和紙の良さを知ってほしい」との思いからUKIGAMIブランドでは、茶缶や缶バッチ、カードケースなど手に取りやすい小物を展開。山次製紙所がある大滝町の岡太神社・大瀧神社は越前和紙には欠かせない存在として親しまれている。

北陸道 武生ICより約10分



福井の

# あらた【新】



遊び心を大切にしながら新しい越前焼に挑む 福井県越前市

一見すると木彫りの風鈴と器だが、手に取ると「あ、陶器だ!」となる。遊び心がある作品のつくり手は、宗倉克幸さん。「陶木というダジャレを思いついて、陶器なのに木彫りのような造形にしたら面白いと思ったんで



す。ダジャレをそのままシリーズ名にしました」と話す表情は、何とも“ゆるふわ”な印象だ。

宗倉さんが作陶を行う宗山窯は、山麓に広がるのどかな田園と集落の中にある。ここは陶芸家である父の創作の場であると同時に、陶工たちが日常使

いの茶碗や湯飲みなどを量産する工場でもあった。「作家の父と陶工の姿を見て育ったこともあり、僕は作家のものであっても敷居が高くない身近なもの、小さな子どもでも気軽に手に取って楽しめるものをつくりたい。性格的に暗いから明るい色味のモノもつくりたいですね。越前焼らしくないと言われますが(笑)」。

その言葉通り、クッキーの型抜きでつくったアクセサリー、色を塗った小物もある。「越前焼で用いる陶土は、鉄分が多く色味が渋い。だけど敢えて地元の水だけで、新しい表現にチャレンジしたいんです。宗倉さんがつくり出す、新しい越前焼が楽しみだ。



**E** 越前和紙など、地域の伝統工芸とのつながりも大切にする

宗山窯二代目 陶芸家 宗倉克幸さん  
Generator 福井県越前市大虫本町4-23 ☎0778-23-1922

高校卒業後、京都の職業訓練校で陶芸を学び、京都の窯元に就職した宗倉さん。家業の宗山窯でも陶工として働いたが、現在は作家として活動。木彫り風の焼き物「陶木」シリーズの風鈴には、越前和紙の短冊を用いるなど、地域の伝統工芸とのつながりも大切にする。「越前焼と言えば宗倉と言われるように、作品を発表する場にもっと出ていきたい」。



北陸道 武生ICより約20分



# おらっちやのかぜ、いしかわ。

古都金沢の賑わいと  
美しい伝統工芸品や山海の恵で  
人々を魅了しつづける、石川県。

なかでも能登半島は、  
北前船の中継地でもあったことから、  
独特の文化や気風が生まれたところ。

断崖に残る「白米千枚田」の棚田では  
人々の創意工夫とたくましさに、  
朝市、里山、温泉地では  
「能登はやさしや土までも」とうたわれた  
人々の素直さと温かさに感動します。

「おらっちや(能登弁でわたし、わたしたち)の風」は  
土地を愛し、人を包み、育てるやさしい風。  
変化を求められる時代に、しなやかに応える  
モノづくり、ヒトづくり、コトづくりをご紹介します。





輪島市

# 石川の き

【木】

## 漆器のまち生まれの、木目を愉しむ木の器 石川県輪島市

端正な形と木目の美しさが魅力の、四十沢木材工芸のKITOシリーズ。自然の木目が表情豊かで、同じものは一つとしてない。作家ものかと思えば、ファクトリー品。しかも輪島塗りが盛んな土地生まれと聞いて、驚いた。「木地屋として漆器産業に長年携わりながら、一方で、漆を塗ると木目が隠れてしまうのが残念で。美しい木目を生かした器をつくりたかった」と話すのは二代目の四十沢宏治さんと妻の葉子さん。試行錯誤の上、輪花や雪輪といった伝統的な意匠を元にしたオリジナル木製品をリリースすると大きな反響を呼ぶ。2019年には、2人の情熱に応えてデザイナーの<sup>おおじまさのり</sup>大治将典氏が加わり「KITO」のブランディングを確立、



新商品も加わり、洗練された暮らし品として人気ブランドに成長した。工場では、機械で木材を削り出し加工した後、指先ほどの小さな<sup>かんな</sup>鉋やヤスリなどを巧みに使い職人が精緻に手を加えていく。最後に液体ガラス塗装を施せば完成だ。「機械と手しごとを組み合わせたものづくりができるのはわたしたちの強み。無垢の木がもつ心地よさ、美しさを引き出していきたい」。目の前に置かれたKITOの器にそっと触れてみた。ほっとする安らぎと温もりに「木が大好き」という2人の想いが伝わってきた。

**Generator** 木目を生かした器を通じて、輪島に人を呼び寄せたい  
四十沢木材工芸 四十沢宏治さん・葉子さん  
石川県輪島市堀町3-8-1 ☎0768-23-4077 <https://www.aizawa-wood.jp>  
営業時間 / 9:00~17:00 定休日 / 土曜日・日曜日 見学は事前に要予約  
漆器用素地をつくる木地屋として、宏治さんの父が創業。夫婦とも輪島で生まれ育ち、県外で進学、就職した後、輪島にUターンした。「私たちは輪島が大好き。器をつくっているの、食を通じて地域の役に立つことができれば嬉しいです。2023年7月には、ショールームをオープンする予定です。輪島にいるいるな人を呼び寄せような取り組みも考えていきたいですね」と語る。

 能越道 のと里山空港ICより約20分



# 石川の かし【菓】

輪島市



能登をまるごと味わう一期一会の和菓子づくり 石川県輪島市

緑萌える里山の自然に溶け込むように、ひっそりとある「の菓子研究所」。ここは、萩のゆきさんの手づくり和菓子が味わえるカフェだ。

靴を脱いで2階に行くと、大きな窓一面に雑木林が見え、その生命力溢れる絶景に「わぁ」と声が出る。「この風景も含めて、里山にある恵みが相まってお菓子になれば、と。カフェで出す和菓子の餡は、畔<sup>あぜ</sup>で育てた豆と山の湧き水を使い、能登の森で焼いた炭で炊きます」と、萩のさん。



訪れたこの日は、みつ豆づくりのために、トッピングに使うルバーブと赤えんどう豆を収穫。寒天は輪島で採れる「エゴ」という海藻を使い、赤えんどう豆を茹でる鍋には能登の「揚げ浜塩田」の塩を入れた。その日に採れた旬の農作物を使う萩のさんの和菓子は、まさに一期一会の味だ。

カフェを訪れる人には、和菓子の素材はもちろん、集落の人々の暮らし、伝統、自然、文化、農業などについて丁寧に説明するといい、この土地の愛情に溢れる萩のさんの話は、ときにウィットに富む。朗らかな笑い声に包まれて滋味豊かな和菓子を味わい、里山の自然を眺めていると、心がほぐれるようなやさしい時間が過ぎていった。

**G** 昔ながらの集落の暮らしを学び実践する活動にも取り組む  
の菓子研究所 萩のゆきさん  
Generator 石川県輪島市三井町市ノ坂7丁目31-3  
カフェ営業日 / 不定期営業 (予約制)  
◎営業日時はSNSにて確認を <https://www.instagram.com/notonogashi/>

東京都出身。結婚後は米国で暮らしていたが、2004年に家族で能登に移り住む。「の菓子」の「の」は「能」登の風土に根ざした、「農」の風景につながる、「野」山の季節の恵みを活かした菓子という意味。自給自足した小豆と合わせて、新しいのに懐かしい菓子を生み出している。

能越道 のと里山空港Cより約15分





# 石川の とき【時】

## 心を穏やかにしてくれる、朝市通りのカフェ 石川県輪島市

輪島の朝市通りに黒いシックな外観のギャラリーカフェがある。輪島塗の漆器をはじめ、各地の手しごとが並び、カウンターではドリップしたての珈琲が香り立つ。通りを見渡すテーブルで朝市の賑わいを眺めながら飲む珈琲のおいしさは旅の特別な思い出になった。もう一度訪れてあの心地よさの物語を知りたいという念願が叶い、輪島を再訪した。

爽やかな笑顔で出迎えてくれたのはカフェ「KALPA(カルパ)」の店主、<sup>やえかど</sup>八重門亮輔さんで、輪島塗を製造販売する創業明治元年の「八重門漆器店」の後継。父の伸助さんと母の真美子さんも漆器店と兼業でカフェで接客する。「カフェで販売するのは、各地に漆器の営業にいく度に見つけたお気に入りのものばかり」と真美子さん。



「KALPAというのは親子で決めた店名で、サンスクリット語。仏教で『劫』<sup>ごう</sup>という気の遠くなるような長い時間を意味するそうです」と微笑む。亮輔さんは「輪島と家族が好きで忘れられず、Uターンしてこのカフェをはじめました。地元の人にも、観光の人にも、一期一会を分かちあえる場となれば」と話す。輪島塗のカップで飲む珈琲の香りに包まれて、穏やかに、この上なくやさしい時間がゆっくりと過ぎていった。

**G** 輪島や日本各地の工芸・民藝のものが揃うギャラリーカフェ  
**KALPA(カルパ)** 八重門亮輔さん  
Generator 石川県輪島市河井町2-72-1  
営業時間 / 8:30~17:00 ※火・木曜は12:00まで 定休日:水曜、年末年始  
☎0768-22-0036 <https://kalpa-wajima.com/>

大学卒業後、東京や神奈川で働いたのち輪島に戻り家業に取り組みながら両親とカフェを開業。もともと好きだったという珈琲は独学で習得したという。酸味と甘みのバランスがよいブレンドやスペシャルティ珈琲とともに味わうクレープのほか、夏のかき氷も人気。輪島塗や各地の工芸品の他、地元の若手作家の作品も扱う。

能越道のと里山空港Cより約20分



石川の

# しろ【白】

七尾市



**まっしろ無垢なおいしさ、能登ミルクジェラート** 石川県七尾市

和倉温泉の一角に行列ができる、絶品と評判のジェラート店がある。まっ白な壁のおしゃれな店内で、定番の「能登ミルク」と一緒にチョコレートを楽しむこととして、早速ひと口。ミルクは、牧場で搾りたての牛乳をごくごく飲むような芳醇な味わい。チョコレートは、カカオの香りとともにふわりと繊細に舌の上でとけていき、その美味に感動した。

「能登ミルクが持つ素材そのもののよさを何よりも大切にしています」と



話すのは、堀川 宙<sup>そら</sup>さん。イタリア・ポローニャで日本最年少ジェラートマエストロ・マイスターを取得したという話題の人だ。忙しく働く宙さんをニコニコと見守る父の昇吾さんに、そのおいしさの理由を聞いた。「もともと、うちは牛乳卸し店でした。事業

として継続するためには付加価値が必要なのではと考え、能登の牧場と一緒に、化学肥料を使わない、牛にストレスを与えないなどの厳しい基準を設けNON-GMO牛乳※に取り組みました。7年以上かかりましたが、牛乳本来が持つ昔ながらのおいしさを実現できた」と語る。ここまで道のりには、並々ならぬ苦勞もあっただろう。でも、そこは多くを語らぬ昇吾さんは終始明るい。真っ白なキャンバスに描く未来を見ている。横に立つ娘の肩に力強く手を置くと、父は照れながら眩しそうに笑った。

**Generator** 能登の自然が育むミルクのおいしさを伝える  
能登ミルク 堀川昇吾さん・宙さん  
石川県七尾市和倉町7部13-6  
営業時間 / 9:00~17:00 定休日 / 水・木曜日  
☎0767-62-2077 <https://notomilk.com/>



東京で大手印刷会社の営業を経て故郷に帰り牛乳卸し店を継いだ堀川昇吾さん。「自然に逆らわないと搾乳する量が減って生産性が落ちるため販路に悩んでいたとき、娘がジェラートづくりを学びカフェをつくりたいと。共通の目標ができたのがよかった」と話す。妥協せず取り組み努力と情熱は娘の宙さんに受け継がれている。

🚗 能越道 七尾ICより約20分 または 田鶴浜ICより約10分

※遺伝子組み換えの飼料を使わず乳牛を育て搾乳した牛乳



石川の

ゆめ

め

【夢】



羽咋市

みんなが幸せでいられる社会を夢見て 石川県羽咋市

海が目の前に広がる千里浜のそば。すいか畑が続くその先に、目的の農園があった。迎えてくれたのは、醸造用ぶどう栽培を行う「イタヤファーム」の代表・藤島健一さん。日焼けをした笑顔が爽やかだ。金沢市内の精神科病院に作業療法士として12年間勤めた後、就労支援事業に携わってきた藤島さんは、「障がいを持った方々が収益を上げられる就労支援事業をワインづくりで実現したい、生まれ育った羽咋市に貢献したい」と、一步を踏み出した。耕作放棄地を整備した1.2haの圃場で、シャルドネなどの5品種1,000本のぶどうを育てて、2024年にファーストワインを誕生させる計画を進めている。ファームのある場所は、日照



時間が長い、海のミネラルが風で運ばれてくるなど、果樹栽培に適した条件が揃う。しかし、1年目はトラブルの連続だった。「霜害で芽が枯れてしまったときは呆然としました。他にも、塩害、灌水、大量のコガネムシに葉を食べ荒らされたときは悔しくて、食べ放題じゃないぞ! って」。それでも、「遅く育ってくれています」と希望を乗せてまっすぐに語る藤島さんの挑戦は、まだ始まったばかり。みんなが幸せでいられる社会を夢見て、「圃場をさらに拡大し、次に福祉事業所とワイナリーの整備、ゆくゆくは人が集まれる場所もつくりたい」と壮大な構想を描いている。

**E** ワインづくりを障がいの者の就労支援事業に！  
イタヤファーム代表 藤島 健一さん  
Generator 石川県羽咋市粟生町 ☎090-6819-5203 <https://itayafarm.jp>

栃木県足利市にある「ココ・ファーム・ワイナリー」を訪れたことがきっかけで、ワインづくりを決断したという藤島さん。「障がいの皆さんが生き生きと働いていて、何よりも自分たちがつくったワインを手にして誇らしそうだったんです。その姿に感動し、嫉妬もして、自分もやろう! と思いました」と話す。イタヤファームでは現在、ぶどう苗木オーナーを募集中。オーナーになると、ワイン(1本x2年間)やオリジナルTシャツなどの特典が受けられる。

 のと里山海道 千里浜ICより約5分



石川の

# ころも【衣】

金沢市



着丈を調整できる内側のループボタンなど、2人の子の母として忙しい日々を送る友里さんならではの細やかな視点が生きている。さらに、生地選びには一層のこだわりがあり、備後節織や会津木綿、亀田縞など



各地の伝統的な織物を使う。「洗うたびに風合いが変化し、体にしっとり馴染むようになって、着るほどに愛着も増します。貴重な織物ですから、小さな端切れも捨てられなくて小物をつくったり。ものづくりが好きなんです」と微笑む。親友のように、さりげなく寄り添う日常の「衣」が、やさしいその手で育まれている。

着るほどに愛着が増す「暮らしの衣」 石川県金沢市

着る人の体も気持ちも柔らかく包んでくれる「暮らしの衣 あじさい」の洋服。つくり手は、金沢市で活動する西 友里さんと、東京都に住む母の佳子さんの“母娘ユニット”だ。「自分たちが着たいもの、長く愛着できるもの」をテーマに、友里さんがデザインして型紙をつくり、佳子さんが縫製して仕上げている。その人気の秘密は、シンプルな仕立ての中の「ひっそりとした」こだわり。「つぼみ袖」と名付けた袖は腕を動かしやすい、ふんわりとしたフォルムで、家事や仕事でもストレスを感じさせない絶妙な長さ。他にもデコルラインを美しく見せる襟ぐりのかたち、



各地の伝統織物を使い仕立てる、日常に寄り添う服  
暮らしの衣あじさい 西 友里さん

Generator

<https://ajisai28.stores.jp> イベント出店情報はInstagram (@ajisai28) にて  
2013年6月にスタートした「暮らしの衣 あじさい」。温もりある洋服は、幅広い世代の女性たちから高い支持を得ている。最近では、イベントやオンラインでの販売を通してファンが増えたこともあり、縫製担当の母の負担を減らしたいと、今は県内の縫製工場にも依頼しているそう。



# 石川の くう【空】



端材生まれの、“空間”を感じる木のアクセサリー 石川県金沢市

静けさが広がる、小さな空間のよう。それが、木のアクセサリーブランド「a piece of」の第一印象だった。ブランドを立ち上げたデザイナーの北川里沙さんによれば「家具の端材でつくっているの、デザインも家具や空間を意識して正方形と長方形にしています」。北川さんが「a piece of」をつくったのは、地元の家職人から「家具の端材で何かできないか」と声をかけられたことがきっかけだ。「端材だからと貴重な木が捨てられるのは切なくて、木の生命を生かしきりたいと思い、行き着いたのがアクセサリーです」。

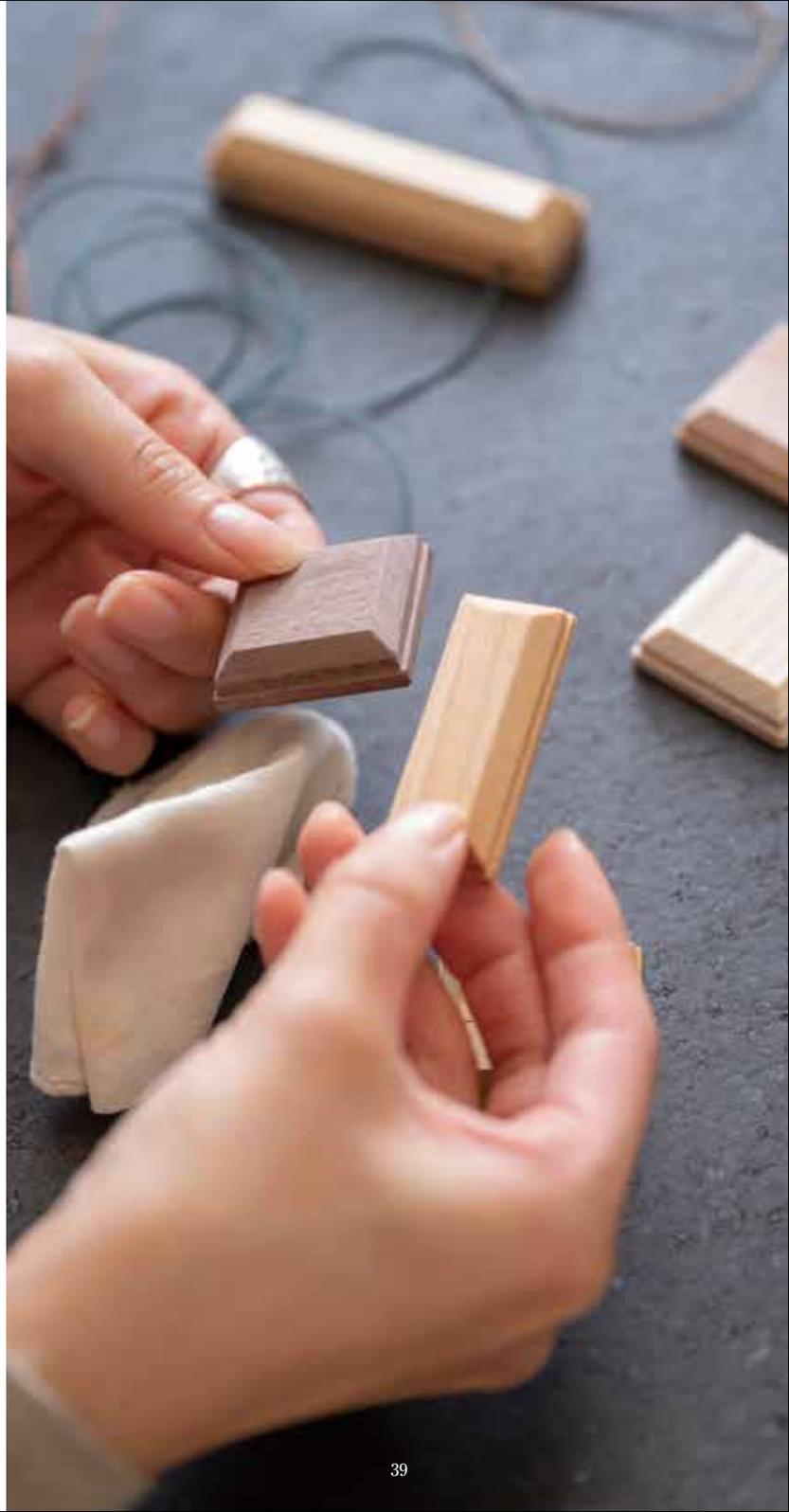


最後の仕上げは自身で行うが、加工は加賀市山中地区で木工の伝統を受け継ぐ家職人の手によるもの。これは「地域の職人さんの技を生かせる仕事を一緒に取り組めたら」という思いによるものだ。北川さんの自宅兼アトリエで仕上げ作業も見せてもらった。アクセサリーに蜜蝋を塗り、ブローチには金具を、ペンダントには革紐を付けていく。手つきはやさしく丁寧で、木への愛情が伝わってくる。

完成品のブローチを自分のシャツに重ねてみた。鏡に映った姿には、空間をまとうような、心地よい空気感が感じられた。

 インテリアからグラフィックまで、幅広く活動するデザイナー  
デザインスタジオ KuKi(クウキ) 北川里沙さん  
Generator <https://kuki-rk.com>

空間デザインを主軸に、さまざまな領域で活躍するデザイナーの北川さんは1児の母。「出産・育児とさまざまな経験を通して人として、デザイナーとして、意識が変わっていくのが楽しみ。新しい扉を開くことにつながると思う」と語る。天然木のケヤキ、栓(せん)、アサダ、ウォルナットを使用する「a piece of」のアクセサリーもまた、時を経ることに変化し、風合いが増していく楽しさがある。



# あいのかぜ、とやま。

立山連邦に抱かれ、  
豊かな恵みをもたらす富山湾を眼前に  
屋敷林が点在する田園風景や  
清らかな水流れる里山に心癒される、富山県。

なかでも、砺波から高岡にかけては  
人々が古くから守り伝えてきた寺社を有する  
美しい街並みや、緑豊かな散居村のなかで  
自然と共存し、伝統の技を生かして  
新しい時代に挑む人たちがいます。

「あいのかぜ」とは、日本海の沿岸部で吹く、  
穏やかな海風のこと。  
しなやかな強さと情熱を胸に、  
ふるさとにあいのかぜを吹き込み  
新しい伝統を創造する人々をご紹介します。



福井県

40

石川県

東海北陸自動車道

41

44 宿 Bed and Craft

46 灯 トモル工房

54 窓 農家レストラン大門

42 真 躑躅飛山光徳寺

富山県

老子製作所  
50 鋳

大寺幸八郎商店  
52 茶

三郎丸蒸留所  
48 酒

立山IC  
流杉PASマートIC  
富山IC  
富山西IC  
富山PA  
高岡砺波  
高岡PASマートIC  
高岡PA  
高岡北IC  
高岡IC  
福岡IC  
小矢部砺波  
JCT  
小矢部IC  
小矢部東IC  
小矢部川ISA  
砺波IC  
不動寺PA  
南砺PASマートIC  
南砺市  
城端SA  
福光IC  
高岡PASマートIC

加賀IC  
金津IC  
尼御前SA  
片山津IC  
安宅PASマートIC  
小松IC  
能美根上PASマートIC  
美川IC  
徳光PASマートIC  
白山IC  
金沢西IC  
金沢東IC

# 富山の まこと【真】



南砺市

## 棟方志功ゆかりの古刹で感じる民藝の心 富山県南砺市

屋敷林が点在する田園を見守るような小高い処に、光徳寺はあった。山門をくぐると、境内には大きな壺や鉢が大胆に配置されその光景に驚く。光徳寺は、棟方志功の傑作『華厳松』の襖絵が残る寺としても有名だ。「私の祖父、18世住職の高坂貫昭は、『白樺』を愛読する文学青年でした。柳宗悦の民藝運動に感銘を受け、河井寛次郎との交流を通し棟方と知り合ったそうです。棟方は祖父の誘いで、この地を何度も訪れ滞在していました。昭和19(1944)年、躑躅が咲く当寺の裏山で強いインスピレーションを得て、6枚の襖に一気に描きあげたのが『華厳松』です」と話すのは現住職の高坂道人さん。取材時、『華厳松』は修復中\*で残念ながら見る

\*すでに修復から戻り、土蔵の展示室で公開されている



ことは叶わなかったが、棟方の直筆の絵画や、河井寛次郎、浜田庄司らの貴重な作品が並び、前任職が蒐集したという国内外の民藝品が置かれた堂内は、温かさを感じ心地よい。「一切衆生を救うのが浄土真宗の教え。祖父は、名もなき職人による手しごとの美こそ真とした民藝に、深く共感したのでしょうね。型破りな人のようで、実は一貫していた」との話に頷く。

「自然という大きな存在に身をまかせながら、感謝して生きることを説く『他力』の教えは民藝にも通じる。古くさいと決めつけず、心の眼で見てください。きっと新しい発見があるはず」と茶目つあふれる笑顔を見せた。



真宗大谷派の寺院で、棟方志功の貴重な作品や諸国の民藝品を公開  
躑躅山(ちよくひざん) 光徳寺 住職 高坂道人さん

富山県南砺市法林寺308 ☎0763-52-0943  
拝観時間 / 9:00~17:00 休日 / 木曜、年末年始 拝観料 / 一般500円

「御本尊は、蓮如上人自作の黄金阿弥陀仏です。現在の金沢市砂子坂町に文明3(1471)年建立し、その後慶長19(1614)年にこの地に移転しました。前任職の父が築200年の古民家を移築した庫裏(くり)で、蒐集した民藝品も展示して公開するようになりました。展示品には、ありのままの姿から感じ取ってもらえれば...との思いで、あえて説明をつけていません」と話す。



東海北陸道 福光ICまたは南砺スマートICより約15分 / 北陸道 小矢部ICより約15分

富山ゆかりの日本画家・故 岩崎巴人(いわさきはじん)氏の色鮮やかな襖絵が美しい。奥の衝立は棟方志功直筆の作品「無量寿(阿弥陀仏のこと)」。その前にはアフリカの古いベッドやスツールが置かれていた



富山の

# やど【宿】



南砺市

## 職人の技とまちを愛する想いが息づく宿 富山県南砺市

人口約8000人のうち200人以上が彫刻師という井波。古い街並みが続く八日町通り沿いには工房も多く、あちこちで木を削る職人の姿が見られる(P56)。このまちに惹かれ、移住した建築家の山川智嗣さんは「地域の職人を活かし、古民家を活かし、まちを活かしたい」とBed and Craftを始めた。「コンセプトは職人に弟子入りできる宿。職人の技を間近で見て、自分でも作ってみることで『伝統工芸ってすごい。職人ってすごい』と意識が変わります」。現在6棟ある宿は、空き家の古民家を山川さんがリノベーションした。宿内には職人の作品が飾られており、宿泊客だけが鑑賞できる。「井波彫刻(P56)は素晴らしい芸術。欄間が有名ですが、今



の暮らしには欄間もないし、彫刻を飾る人も少ない。だから、ここで彫刻がある生活空間を体験して欲しい」。山川さんが提案する「暮らすように旅をする」スタイルは、その人の記憶に深く刻まれ再訪を促す。「僕は純粹に井波のまちと人が大好き。その想いと建築家の職能で、外の人と井波の職人・作家をつなぎたい。観光は“人”。出会いの記憶が残って、人のつながりをつくると思うのです」。その言葉から真っ直ぐな気持ちが伝わってきた。

**P** 井波の職人、伝統工芸、文化を残したい  
**Generator** コラレアルチザンジャパン代表 建築家 山川智嗣さん  
富山市出身の山川さんは、海外生活を経て井波に移住。伝統工芸や古民家を活用した宿泊施設や飲食店などをプロデュースするコラレアルチザンジャパン代表を務める。リノベーションする空き家の古民家は山川さん自らが見つけたもので、持ち主に「井波の職人、伝統工芸、文化を残したい」という想いを伝え、共感してもらうことを大切にしている。

**N** 1棟貸切の宿。宿内には宿泊客のみが鑑賞できる作品も展示  
**Bed and Craft (BnCラウンジ)**  
**Note** 富山県南砺市本町3丁目41 ☎0763-77-4138 予約対応日/水曜～月曜 <https://bedandcraft.com>  
木彫刻の町・井波にて2016年に開業。6棟ある宿はすべて1棟貸切。1棟ごとに木彫、漆芸、陶芸、仏師、作庭といった異なる分野の職人が空間プロデュースにも参加しており、宿泊客が職人に弟子入りするワークショップも担当する。宿内には作品が展示されており、リノベーションされた空間と作品を楽しめるところも魅力だ。

東海北陸道 福光ICまたは南砺スマートICより約15分 / 北陸道 砺波ICより約15分

Bed and Craft "RoKu"(ロク)

かつて井波の診療所として使われていたといひ、北陸の銘石・日華石を用いて井波の宮大工が建てた石蔵をリノベーションした宿。作庭家・根岸 新さんの手による美しい庭には火鉢や古い瓦が配され、井波の歴史と自然を体験することができる



富山の

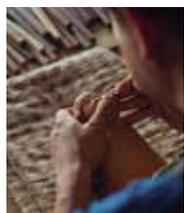
# ともし【灯】



南砺市

古い街並みに灯る、ふたりの光 富山県南砺市

菩薩のような微笑を浮かべる少女の木彫像。流れるような木彫を見ていると、自分がぐんと小さくなって大いなるものに抱かれているような気がする。対して、小さな漆塗りの香合は、手の平にのせて眺めていると、大空を見上げているような伸びやかさを感じる。井波彫刻を基とする木彫像は田中孝明さん、漆の香合は早苗さんの作品で、井波の古い街並みに立つ「トモル工房」が夫婦のアトリエだ。「夫は外に出ると下を向いて種ばかり拾ってくるんです。私は逆に空ばかり見てる」と朗らかに話す早苗さん。2人は、井波で井波木彫刻師と漆芸家に師事し、その修行中



に出会ったという。早苗さんは「5月に田んぼを散歩したら、脳みそがぱかっと開くようにして突然、自然が入ってきて。それを漆で表現したいと思った」と、孝明さんは「水の粒とか、種とかから触発され、木の中から彫り出して表現している気がします」と話す。

見た目はまったく違う2人の作品は、実は共通点が多いことに気づく。「小さな明かりでも絶やさず灯して少しずつ発信していこうと『トモル工房』と名付けました。Bed and Craft(P44)ができ、人が繋がっていくのが嬉しくて。少しずつ強い光にしていけたら」と語る早苗さんに、孝明さんが大きく頷いた。

 彫刻のまちの、電笠のれんが目印の工房  
トモル工房 田中孝明さん 早苗さん  
富山県南砺市本町3-26 ☎0763-82-3637  
営業時間 / 8:30~18:00 定休日:日曜  
<http://www.wood-urushi.net/>

広島生まれという孝明さんはノミと彫刻刀を使う井波木彫、横浜出身の早苗さんは漆による表現を探究した作品に取り組む。トモル工房では作品の展示販売や孝明さんの木彫を見学できるほか、2人の作品空間に滞在できる宿「Bed and Craft」もすぐ近くにある。

 東海北陸道 福光ICまたは南砺スマートICより約15分 / 北陸道 砺波ICより約15分



富山の

# さけ【酒】



砺波市

曾祖父から受け継ぐ情熱のクラフトウイスキー 富山県砺波市

北陸で最古のクラフトウイスキーの蒸留所、三郎丸蒸留所。母体は江戸時代から続く日本酒の蔵元・若鶴酒造で、1952年に二代目稲垣小太郎氏がウイスキー製造を始めた。現在は小太郎氏のひ孫・貴彦さんを中心に、往時の面影が残る木造瓦屋根の蒸留所でウイスキーづくりを行う。

「曾祖父が1960年につくり、50年以上熟成したウイスキーを数年前に商品化しました。麦の甘みがあり、フルーティーで香りも多彩。そんな重層的な味をつくりたい」と貴彦さん。熱気のこもった蒸留所に入ると、金色に輝く大きなポットスチル「ZEMON」が現れた。貴彦さんが地元の伝



統工芸・高岡銅器の鋳物技術に着目し、試行錯誤のうえ発明した世界初の鋳造製蒸留器だ。

2021年にはボトラーズ事業も開始。日本各地の蒸留所から原酒を購入し、熟成、販売する事業で、小さな蒸留所の経営と個性あるウイスキーづくりの支援にもなる。購入した原酒は、県内産の木を使った木造の熟成庫に入れ、その清々しい環境の中で育てていく。取材中、何度も「富山から日本のクラフトウイスキーの発展に貢献したい」と語っていた貴彦さん。その表情には故郷とウイスキーへの愛が溢れていた。

**F** 曾祖父のチャレンジ精神を受け継ぐブレンダー  
三郎丸蒸留所 マネージャー&ブレンダー 稲垣貴彦さん

Generator

2016年から同社のウイスキーづくりを牽引。ボトラーズ事業を行うT&T TOYAMAは、貴彦さんの師匠であり同志というモルトヤマの下野孔明さんと立ち上げた。「曾祖父は60代、70代でも新規事業に挑戦していた。そのチャレンジ精神を受け継いでいるのかもしれない」と朗らかに話す。



**N**

Note

見学もできる北陸で最古のウイスキー蒸留所  
富山県砺波市三郎丸208 定休日/水曜、年末年始など  
☎0763-37-8159(予約センター)  
見学は完全予約制。見学時間等、詳細・申し込みはWEBにて  
<https://www.wakatsuru.co.jp/saburoumaru/access.php>



**🚗** 北陸道 砺波ICまたは高岡砺波スマートICより約10分



# 富山の ちゅう【鋳】



高岡市



で整えている様子に匠の技を感じる。「鋳物は砂型にお湯(溶かした金属)を入れて固めます。普段の厚さとは違い、蒸留酒向けには肉厚にしなければいけない。また、食品関係の法律を調べたりするなど、意識改革が必要でした」と話す。食品安全上、鉛を使わず、銅錫合金を使用した。「錫は酒の味をまろやかにし、青銅は熱を逃がしにくいため省エネにもなる。砂型を使うと表面に凹凸ができてしまうけれど、蒸気の接触面積が大きくなるため香り高い酒ができる。鋳物の欠点か、長所が変わった」。高山の酒造店に出荷予定という第2号「ZEMON」の横で嬉しそうに笑った。

## 世界初を叶えた、高岡銅器の技 富山県高岡市

高岡銅器の技術を用いた世界初の鋳造製ポットスチル「ZEMON」。若鶴酒造の稲垣貴彦さん(P48)の取材後、共同開発した老子製作所を訪ねた。同社は、高岡銅器による梵鐘の製造で全国7割のシェアを誇り、広島市の「平和の鐘」を手がけたことでも知られている。「江戸中期に創業し、代々次右衛門を名乗ってきました。『ZEMON』の名の由来です」と語るのは、社長の老子祥平さんだ。「超大型の鋳物を製造するのは得意ですから開発は問題ないと考えました。しかし結果的には完成まで3年以上を要した」という。熱気のある工場を見せてもらうと、梵鐘や仏像を相手に職人たちが仕上げなどに取り組んでいた。砂の型を丹念にへら

**Generator** 伝統技術で高品質な蒸留酒製造を実現  
株式会社老子製作所 代表取締役社長 老子祥平さん  
富山県高岡市戸出栄町47-1 ☎0766-63-6336  
工場見学は事前に問い合わせ、予約が必要

梵鐘を始め、寺社仏閣に納入する仏像から公園のモニュメントまで様々な鋳物を製造する。「型に溶かしこんでつくりあげる鋳物はおもしろい。鋳物でやれることがあれば、何でも挑戦したい。できないことをできるように仕向けていくのは楽しいですね」と話す。



北陸道 高岡砺波スマートICより約10分 または 砺波ICより約20分 / 能越道 高岡ICより約15分



富山の

# じゅう【柔】



高岡市

## 高岡銅器の魅力と可能性を広げる 富山県高岡市

千本格子の町屋が連なる高岡市金屋町に金属工芸品卸・小売店「大寺幸八郎商店」を訪ねた。1860年に<sup>いもの</sup>鋳物工場として創業以来、高岡銅器の伝統を受け継ぐ老舗だ。「昔ながらの花瓶や茶器などと共に、今の生活様式に合うモダンなものも扱っています」と穏やかに話すのは、6代目の大寺康太さん。人気があるというミニ干支の置物は、ほのぼのとした12種類の動物が揃う。手の平にちょこんと載るぐらいのサイズで愛らしい。「富山市の林ショップ店主であり創作活動を行う従兄弟の林悠介と一緒に考えて生まれた作品です。ロウで原型を作る<sup>すず</sup>鋳造方法で、細部の造形にもこだわっています」。一方で、「錫はとても柔らかい金属で



す。曲げたり、テクスチャーをつけてみたり、実際に素材に触れているとアイデアが浮かびます」と朗らかに話すのは、錫のアクセサリー作家として活動する妻の桂さん。2018年には自身のブランドを立ち上げ、お店の隣家に工房兼ギャラリー「博選堂FUTATABI」をオープンした。高岡銅器の新しい風を吹かせる康太さんと桂さん。「まずは高岡銅器の魅力を、それをきっかけに高岡市の良さも知っていただきたいです」。そう話す2人の柔らかな人柄は、どこかほっとする金屋町の雰囲気に通じていた。

**Generator** 高岡銅器の魅力を独自のアプローチで伝える  
大寺幸八郎商店 6代目 大寺 康太さん、桂さん  
富山県高岡市金屋町6-9 ☎0766-25-1911 www.ootera.com  
営業時間 / 10:00~17:00 定休日 / 火曜日(祝日は営業)

千葉工業大学を卒業後、家業に戻った康太さんは、「高校生の頃から父の手伝いをし、鋳物をずっと身近に感じていましたから、自然に跡を継ぎました」と話す。桂さんは、東京都港区生まれ。武蔵野美術大学を卒業後、大手電機メーカーで携帯電話などのプロダクトデザインに従事し、結婚を機に高岡市に移住。現在は2児の子育てをしながら、錫のアクセサリー作品の創作に力を注ぐ。

北陸道 小矢部ICまたは能越道 高岡ICより約10分



富山の



砺波市

# しいつくしみ【慈】

滋味豊か、慈愛あふれる伝承料理に感動 富山県砺波市

カイニョ  
屋敷林に囲まれた伝統家屋「アズマダチ」を活用したという農家レストラン  
おおかど  
ン大門。立派なケヤキの梁や柱を眺めつつ客席で待っていると、朱塗りの  
椀が並ぶ豪華なお膳が目の前に置かれた。「浄土真宗の仏事『報恩  
講』で出すお膳を再現しています」と話すのは女将の境 嘉代子さん。地  
元の食文化を研究し、郷土料理を広める活動をしている。「これは大門  
素麺といってこの特産品。おつゆは椎茸でとった出汁に玉ねぎで甘み  
を加えました。大きながんもどきは地元では『まるやま』といって、肉料理



の代わりとして出されます」。根菜や筍がたっぷり  
入った「まるやま」は箸を入れると出汁が滲み出てと  
てもおいしい。大門素麺は、ほんのり甘いつゆに生姜  
が香りさっぱりした味わい。寒天に溶き卵や生姜、調  
味料を入れて固めた「ゆべす」の美しさ、根菜と小豆  
を“おいおい”と煮た「いとこ煮」のほっこりとした食感。箸が止まらぬ美  
味と彩りの愉しさにすっかり魅了された。一つひとつの料理が持つ物語  
を、慈しむように話す境さんと会話が弾み、時間が経つのを忘れてしま  
う。富山って、いいところだなあ、としみじみ思いながら帰路についた。



砺波の伝承料理を次世代に伝える

農家レストラン大門 女将 境 嘉代子さん

富山県砺波市大門165 ☎0763-33-0088

営業時間 昼の部 11:00~14:00 夜の部 17:00~22:00

※昼の部もできるだけ予約か電話確認を、10名以上の団体、夜の  
の食事は完全予約制 休業日/年末年始(12/31~1/3)

<http://n-r-ookado.co.jp/>



2006年に食を通じて交流する「卯月の会」を立ち上げ、2015年に空き家を  
再生した「農家レストラン大門」をオープンした。「砺波の食文化は、信  
仰と深く結びついています。伝承料理や保存食は、地元で採れる、旬の食  
材を一番おいしく食べられるように工夫されていると感心します。おいし  
くつくるコツは？と聞くと「みんな、失敗しながら覚えていくもの。感謝の気  
持ちは忘れないうこと、素直に聞くことが大切」とにっこりした。



北陸道 砺波ICより約8分





井波彫刻師の工房が立ち並ぶ八日町通り



瑞泉寺山門。井波彫刻の精緻な技を感じる



# 北陸の くらし【暮】

「暮らすように旅をする」ということ 富山県南砺市井波にて

北陸ジェネレーションのもう一つのテーマは「その地で暮らすこと」への探求でもある。今回は富山県南砺市井波で職人に弟子入りできる宿「Bed and Craft」(P44)が提案する体験、木彫のスプーンづくりを20代の本誌スタッフが取り組んだ。トモル工房の田中孝明さん(P46)による指導のもと、井波彫刻の技を学びながらノミや彫刻刀で1本のスプーンを彫り出す。3時間あまりの間、まちのこと、井波彫刻のこと…様々な会話が生まれる。開け放たれた窓からは家並みが見え、人や風が通り、匂いや空気を共有する。四苦八苦の末できたスプーンをカバンに大切にしまって、井波のまちをゆつくりと歩く。井波彫刻が見事な瑞泉寺の山門や、八日町通りの工房でノミや彫刻刀をふるう職人をじっと見つめる横顔は、匠の技への尊敬と、芽生え始めたこの地への愛着が滲み出ている。



井波別院 瑞泉寺



彫刻師の手による木彫りの猫



1枚の板からスプーンを彫り出す

## **N** 移住・定住のお問い合わせは

Note

いしかわ就職  
定住総合サポートセンター (ILAC)  
Uターンサポート石川

石川県金沢市石引4-17-1 石川県本多の森庁舎1階  
☎076-235-4540  
いしかわ暮らし情報ひろば <https://iju.ishikawa.jp/>  
インカワノート <https://ishikawa-note.jp/>

福井暮らしはたらくサポートセンター  
(福井Uターンセンター)

福井県福井市手寄1丁目4-1 AOSSA 7階  
☎0776-43-6295(直)  
<https://www.fukui-ijunavi.jp/>

富山くらし・しごと支援センター  
富山オフィス

富山県富山市湊入船町9-1 とやま自遊館2F  
☎076-411-9179  
[https://toyama-teiju.jp/toyama\\_support-center](https://toyama-teiju.jp/toyama_support-center)

北陸経済連合会 北陸イメージアップ推進会議

「北陸に住もう～移住・Uターンガイド～」事務局

石川県金沢市片町2丁目2番15号(北園ビルディング4階) ☎076-232-0472 <http://www.hokuriku-imageup.org/hokuriku-gurashi/>

ニッポンローカルの“ていねい”を、  
旅するように、暮らしのなかへ。

「身土不二(しんどふに)」という言葉をご存知でしょうか。「生まれついた土地・風土のものは、自分の体に合うもの」という考え方のなさそうです。私たちご紹介しているものは、日本の風土に根付いた布、紙、土、木や、海山里の恵みを使った地域の作り手によるもの。日々をやさしく、ゆたかに彩って永く愛用できるものを集めています。

**N**  
**Drive SHOP**

オンラインショップ

本誌でご紹介した  
こだわりの逸品が買える店  
[www.ndrive-shop.jp](http://www.ndrive-shop.jp)

地域の作り手、送り手、使い手とともに



北陸ジェネレーション

ていねいを探す北陸旅3 風の道をいく

発行／中日本高速道路株式会社

WEBサイトにて「北陸ジェネレーション」バックナンバー公開中

[www.n-drive.jp](http://www.n-drive.jp) ◎誌面についてのお問い合わせ [info@n-drive.jp](mailto:info@n-drive.jp)

企画／中日本高速道路株式会社 金沢支社 企画・取材・編集／NDrive編集部

◎取材・掲載協力：キッソオ、土直漆器、漆琳堂、タケフナイフビレッジ、岡田打刃物製作所、山次製紙所、宗山窯、四十沢木材工芸、の菓子研究所、KALPA、八重門漆器店、能登ミルク、イタヤファーム、暮らしの衣あじさい、デザインスタジオKuKi、彌飛山光徳寺、コラリアルチザンジャパン、Bed and Craft、トモル工房、若鶴酒造、三郎丸蒸留所、老子製作所、大寺幸八郎商店、農家レストラン大門(敬称略)

※本誌掲載のデータは2022年12月現在のものです。営業時間、休み、料金など、変更される場合もありますのでご利用の際はご確認ください。諸事情により価格・商品パッケージ・盛り付け・内容量等が変わる場合や天候や混雑等により売り切れが生じる場合があります。